



January

2025

1

2025

新春のお慶びを  
申し上げます



JAこしみず

組合だより No.174

クローズアップ  
**Closeup**

- ① 年頭のご挨拶
- ② こしみず実りの感謝祭  
& フォトコンテスト結果発表

# 年頭のご挨拶

小清水町農業協同組合  
代表理事組合長

安田 和弘



新年あけましておめでとうござい  
ます。組合員の皆様、地域の皆  
様に謹んで新春のお祝いを申し上  
げます。また、平素よりJAにお  
寄せ頂いております御理解と御協  
力に心から厚く御礼申し上げます。  
昨年を振り返りますと、大谷選  
手など世界で活躍する日本人やパ  
リオリンピック・パラリンピック  
の様々な競技で熱戦を繰り広げら  
れた皆さんの姿を応援し、日本人  
としてのアイデンティティに誇り  
を感じた国民も多かったのではな  
いでしょうか。一方で元日に石川  
県能登半島を最大震度7が襲い、  
多数の犠牲者と甚大な被害が発生  
しました。能登復興のさなか、9  
月には農作物が半分程度しか収穫  
されてない時期に線状降水帯によ  
る24時間雨量40ミリ超えの豪  
雨が襲い、土砂崩れや河川の氾濫  
仮設住宅の浸水など再び生命と生  
活を脅かされる事態となり日本の  
自然災害の猛威を感じる年となり  
ました。オホーツク組合長会では  
昨年10月にJA石川県中央会へ  
御見舞に伺い、復興にお役立て頂  
く目的で支援金を贈呈いたしました。  
被災された皆様に心より御見  
舞い申し上げますと共に一日も早  
い復興をお祈り申し上げます。

世界では依然としてロシアがウ  
クライナを侵攻し3年目に入ろう  
としています。それによって各国  
の利権争いにより世界が分断され  
様々なものに影響を及ぼしている  
状態です。中東情勢や台湾有事も  
問題となっています。  
米大統領選挙では経済状態に不  
満を抱いた有権者がトランプ前大  
統領を選びました。アメリカ  
フアーストの政策により米国の考  
え方が、前述での紛争や経済に多  
大なる影響を及ぼすこととなり日  
本としての立ち位置や判断が問わ  
れる難しい1年となることでしょ  
う。

日本では岸田首相が退陣表明し、  
任期満了に伴う総裁選により石破  
茂氏が選出されました。その後、  
石破内閣が衆院を解散し総選挙が  
行われましたが政治とカネをめぐ  
る問題により自公連立与党が過半  
数を大きく割り込む結果となり事  
実上の大敗を喫しました。与党は  
国民民主党など野党の一部の協力  
を得て第2次石破内閣を発足。  
「地方こそ成長の主役」と農業の  
活性化、地方創生を最優先に取り  
組む決意の石破首相に期待したい  
ところでありますが、諸外国との  
関係性や深まる国内政治に不安が  
残ります。また、農政の憲法であ  
る「食料農業農村基本法」が4半  
世紀にぶりに改正され、日本の農  
業は大きな転換期を迎えています。  
昨今の世界的な食料情勢の変化に  
伴う食料安全保障上のリスクの高  
まりや地球環境問題の対応と気候  
変動等、日本の農業を取り巻く情  
勢が制定時には想定されなかった  
レベルで変化しています。食料安  
全保障の確保を基本理念として、  
新たな基本計画を今年の3月まで  
に改定しますが初動5年間は  
「農業構造転換集中対策期間」  
と位置付けられています。充実  
した施策と農業予算の拡充を实  
現し生産基盤が揺らいでいる農  
業と農村の立て直しとなるよう  
早急に進めていかなければなら  
ません。  
JAの運営としては、第76回  
通常総代会を皆様からご承認を  
頂き、11次中期振興計画の2年  
目として着実に実践して参りま  
した。8・6プロジェクトによる  
実践技術情報のご案内や、持続  
可能な輪作体系の確立に向けて  
営農部を中心に協議を続けてい  
るところです。子会社Rakuo  
moには本州からの農高生や一  
般人の酪農体験の受入、TMR  
センターへの加入も行いました。  
小清水農業振興公社では産地間  
連携による農作業支援の拡充を  
主体に、商品の開発を進め、  
「ほろり」と「うまいんじや  
が」が新発売しました。職員に  
よるPR teamはJAや小清  
水町の魅力を発信し新規採用者  
獲得への貢献や小清水中学校1  
年生の考案による公式キャラク  
ター「こむぎん」の誕生、新し  
い加工食品（うどん、そうめん、  
納豆）など着実に成果をあげて  
いるところです。また、町民還  
元である「こしみず実りの感謝  
祭」には寒い中、多くの方々に  
ご来場いただき、食・グルメの  
祭典で盛り上がり、小清水町の

## 謹賀新年 JAこしみず 小清水町農業協同組合

代表理事組合長	安田 和弘
専務理事	牧野 昭紀
理事	鎌田 保宏 佐々木正俊 吉田 伸明 山中 康裕 相内 隆男 伊藤 修司 立花 和也
代表監事	高橋 隆仁
次席監事	山田 英明
常勤監事	眞柳 正嗣
参事	渡部 徳智 他職員一同

定番のお祭りとなりました。

昨年のお祭りにおいては、春先から雪解けが早く耕起作業も順調に始まりましたが、4月下旬にまとまった雨が続き、播き付け作業に遅れを生じました。その後徐々に天候も回復し6月には作況も全般的に進んでいる状態となりました。しかし、7月には前年同様に暑さが続き秋播き小麦の収穫受入れも26日から開始されましたが水分が高く苦労しました。皆様のご協力により、8月7日を最終日として全圃場受入れました。両品種とも93%以上と高い製品率で終えることが出来ました。

また、澱原馬鈴薯は暑さにより品質の低下を心配しましたが生産者の皆様の管理作業の徹底と夜温が前年より低かったことなどによって反収・澱粉価ともに平年を上回り澱粉製品袋数は網走の原料と合わせ計画以上の879,619袋となりました。全道でも15万tの生産となりましたが、16万tの需要がある中、危機的な在庫状況には変わらぬまま、危機的な在庫状況には変わらぬまま、皆様に利用を制限させて頂いている状態です。引き続き、澱原馬鈴薯の面積維持拡大を御願いたします。甜菜においては、防除を早くから行ってきましたが後半に褐斑病が一部で広がり、糖分としては15%前後を見込んでいます。大豆の大豆のともよみ安定品種となり過去最高の概算製品となる見込みです。青果においては、品目により製品歩留まりや市場価格の影響がありました。同時に2024問題による全般的輸送コストをどこで吸収できるかがこれからの課題となります。肉畜においては、景気の低迷により市場価格が下落している状況であり飼料高騰の高止まりと共に影響が大きい年

となりました。

酪農においても、乳価は上がりましたが、昨年からの猛暑の影響により分挽時期のズレや乳質の低下となり個体販売の価格にもバラつきがあり収益に影響を及ぼしましたが、飼料作物の生育は前年より良い状態で収穫することが出来ました。作況全般的には大きな災害もなく平年作を見込んでいます。しかし、まだまだ燃料・資材は高騰したままで施設や機械などの価格の上昇には歯止めが利かない状況です。冷静な経営状況の判断と計画的な投資を営農部と相談しながら進めていきたいと思います。また、我々が努力しても達成できないものに対しては農政を通じて要請していかねばなりません。甜菜においては、異性化糖換算係数見直しや指定糖調整率の引き上げ、糖化調整制度安定運営緊急対策交付金として60億の補正予算など、糖化調整金収支の累積赤字解消に向けて対策を頂いているところです。しかし、令和9年に向けての方向性がまだ見えないことや小麦の流通問題、大豆の出口対策、馬鈴薯の種芋生産に酪農の改正畜安法の問題など課題は山積みであり、これらは政治の力でなければ解決できないものばかりです。全国の農業者が30年後には7割減となる見通しの中、今こそ農業者自らが結集し声を中央に届けなければいけない時です。

皆様ご承知の通りJAグループの農政組織である全国農政連において今年の夏の参議院選挙に向けて現在ホクレンの代表監事としてJA道北なよろの会長でもある「東野ひでき」氏を組織内候補として決定しています。我々と同じ農業者の代表である「東野ひでき」氏の仲間づくりの

輪を広げて頂けるよう御願致します。

また、昨年は11月に第31回JA北海道大会が通常開催され将来ビジョンである「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」を育み、ひとと歩むの実現に向けて、組合員、JA、連合会がそれぞれ役割を再確認し、決議事項の実践に取り組むよう全道3,000人以上の参加者のもと大会議案が決議されました。一人の農業者では何も出来ないかもしれませんが、全道の農業者が同じ思いで意志結集となればこんなに力強いものはないと確信された組合員も多かったはずです。

今年「巳年」ですが「復活と再生」

を意味し、新しいことが始まる年になると言われています。個人主義が浸透し協同意識が希薄になった時代、それは家庭にまで影響されてはいないでしょうか。農業は国家と生命を守るため先人から繋いできたものです。また、開墾や自然災害との戦いでもあったので、自ずから共同体を形成し義理や人情の心が重んじられ、相互扶助の精神が宿り協同理念の確立へと歩んだことを歴史が物語っています。昨年は各農事組合を訪問させていただき、各々の文化や伝統を地域の皆様に引き継いでいる姿を見ることが出来ました。我が農業協同組合も同じであり協同精神復活の新しい年となるよう皆様で進めていきたいと思います。

本年が皆様方にとって健康であり、災害のない豊穰の出来秋となることを御祈念申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

賀正		小清水町農協女性部			
会	書	副	監	副	部
計	記	部	事	部	長
加藤	佐藤	村	林	高橋	竹内千奈美
亜澄	明里	上	和子	房子	
	光音	光音	美奈	由紀	
	蛍				

賀正		小清水町農協青年部			
参	監	会	副	部	部
与	事	計	部	長	長
栃本	千葉	津野	津野	竹内	齊藤
大地	英介	直人	隆太	友輝	貴士
				基	

# 令和7年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 樽井 功



新年あけましておめでとうござい  
ます。

組合員の皆様におかれましては、  
日々営農に更に邁進されておられる  
ことと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一  
丸となり地域農業の振興や地域社会  
の発展に向け、日頃より多大なご尽  
力をされていることに対しまして、  
改めて敬意と感謝を申し上げる次第  
であります。

昨年の北海道農業については、春  
先から天候に恵まれ、各作物の生育  
は全般的に平年よりも早く進んでお  
りました。しかしながら、夏場は猛  
暑・豪雨による記録的な高温多湿の  
影響を受け、各作物等の収量および  
品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害  
の多発や栽培適地の変化、国際紛争  
や急激な円安の進行による飼料・肥  
料をはじめとした生産資材の高止ま  
りが農業経営に甚大な影響を与えて  
おり、農業・農村を取り巻く環境は  
一段と厳しさを増しております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・  
農業・農村基本法が改正され、現状  
に即した基本理念の見直しと、「食  
料安全保障の抜本的な強化」、「環  
境と調和のとれた産業への転換」等

の実現が盛り込まれました。政府は、  
初動5年間で農業構造転換集中対策  
期間と位置づけ、施策を集中的に実  
行するとともに、今年3月に食料・  
農業・農村基本計画を策定するべく  
引き続き検討を進めております。

J Aグループ北海道としては、食  
料安全保障の強化と持続可能な北海  
道農業の確立のために、農地の確保  
および適正利用の強化、食料・自給  
飼料等の安定生産・供給と環境負荷  
軽減の両立に取り組みながら、それ  
を後押しする力強い政策支援を求め  
ていくことが重要と考えております。

また、昨年は第31回J A北海道大  
会が開催され、「食料安全保障の強  
化と持続可能な北海道農業の確立」、  
「J Aの組織基盤の強化と健全な経  
営基盤の確立」、「アグリアクショ  
ン北海道の推進による農業・食・J  
Aへの理解醸成」の3つの議案を決  
議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合  
員・J A・連合会が一丸となって、  
生産現場の行動変容と組合員の意思  
結集による農政運動、J Aの経営管  
理の高度化やデジタル化の推進によ  
る業務効率化・生産性向上に取り組  
んでいかなければなりません。

さらに、消費者の皆様には、J A

グループ北海道統一の情報発信のフ  
レーズである「アグリアクション北  
海道」を浸透させるとともに、効果  
的な情報発信により、今まで以上に  
農業・食・J Aに対する理解を深め  
ていただき、J Aグループが提唱す  
る「国消国産」の認知を広げてまい  
りましょう。

結びになりますが、本年は巳年で  
す。巳（へび）は冬眠から目覚め地  
上に這い出すことから、冬に根を  
はった草木が芽を出し「新しい種子  
が生まれる」という意味があると言  
われ、転じて、巳年は力を蓄えてい  
たものが芽を出す「起点」の年、脱  
皮する特性と併せ「再生と誕生」を  
意味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北海  
道農業の飛躍の起首となること、皆  
様のご多幸とご健勝をご祈念申し上  
げ、年頭のご挨拶といたします。



# 新年のご挨拶

網走農業改良普及センター清里支所

支 所 長 荒 井 邦 浩



新年明けましておめでとうございませう。

皆様におかれましては、ご健勝で希望に満ちた2025年の新春をご家族とともに迎えられることを心よりお慶び申し上げます。また、皆様には日頃より普及センターの活動に對しまして、特段のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年の気象と農作物の作況を振り返ってみますと、生育期間を通じて高温傾向となりましたが、一昨年のような農作物への大きな影響はありませんでした。

融雪期は平年より3日早く、その後も高温で推移しましたが、4月下旬から5月上旬にかけて断続的な降雨により馬鈴しよの植付作業、てん菜の移植作業がやや遅れました。また、5月下旬も断続的な降雨により豆類のは種もやや遅れましたが、その後は高温となり順調なスタートを切ることができました。

秋まき小麦の生育は出穂期で1日遅れましたが、その後高温に経過したため成熟期は平年より2日早く迎えました。病害に

ついては、6月下旬の高温の影響により赤さび病の発生が散見されました。粗原収量は平年をやや下回りましたが、製品率が平年を上回り、製品収量は平年並となりました。

馬鈴しよでは植付作業がやや遅れたものの、その後の高温により開花期以降は平年並の生育ステージを迎えました。8月上旬に軟腐病が散見されましたが、病害虫の大きな被害も見られず、収量、澱粉価ともに平年並となりました。てん菜も移植作業が4日遅くなりましたが、その後の高温により根部肥大は順調に進みました。9月に褐斑病が散見され、糖分はやや低下しましたが、収量は平年並となりました。

豆類については、大小豆ともに出芽期で5日遅れましたが、その後順調に生育し、大豆の開花期は早4日、小豆は早2日となりました。大豆の草丈は平年比88%と低く倒伏もなく順調で収量も平年を大きく上回りました。小豆の草丈は131%と徒長し、茎葉の成熟遅れによる莢先熟の発生で収穫が遅れるなど、収量・品質は平年をやや下回り

ました。一方で飼料作物は収量・品質とも平年作を確保できました。

昨年、一昨年のように厳しい気象条件の中、皆様は作物の生育に合わせた栽培管理にご尽力されたことと思います。今後とも異常気象に對応できるよう、日頃から実践されている土づくりや輪作体系の確立、高い栽培管理技術を持って立ち向かって頂きたいと思っております。まさに「温故知新」です。

普及センターは、地域の諸課題に對し皆様とともに、町やJAなどと連携強化して活動を推進し、皆様方の農業経営の向上及び地域農業の振興に力添えできればと考えております。

本年が輝かしく豊かな年となりますよう、併せて皆様のご多幸と益々のご発展をご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



# 新年のご挨拶

ホクレン斜里原料所

副 所 長 佐藤 宏二



新年を迎え、心よりお慶び申し上げます。

日頃より組合員皆様をはじめ、農協および関係機関の皆様には、てん菜の振興に対しご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。令和6年播種定植は4月18日に開始、最盛期は5月4日に迎えました。定植作業期間中は天候不順でしたが、その後の天候は恵まれ初期生育は良好な状況でした。

令和6年は早くから猛暑が予想され、令和5年に続き褐斑病などの主要病害の多発生が懸念されました。7月上旬に入ると9月まで続く高温・猛暑と8月上旬～8月下旬まで続く断続的な降雨により、連作圃場を中心に褐斑病が発生しましたが、生産者皆様の早期防除徹底、残効を切らさない防除間隔および防除回数など高い徹底防除への意識と実践により、被害面積と被害程度は令和5年よりも抑えることができました。

このような状況での坪掘り結果から算出された予想収量は平年並みの77.0t/ha、糖分は猛暑の影響で平年より低いですが令和5年実績よりも高い

15.3%が見込まれました。

令和6年でん菜生産実績は、前述のように褐斑病などの防除徹底で生産性への影響を抑えたことで、収量は78t/haと計画より増収、糖分は病害多発した令和5年より約1.0%高い15.0%となる見込みです。組合員皆様の適切な肥培管理、そして懸命なる薬剤防除効果の賜物であることと深く感服するところであります。

てん菜受入輸送について10月11日からスタートしましたが、積載量規制強化による積み荷低下、日別計画出荷量の設定の甘さ、加えて他地区受入場トラブル等の影響で混雑し出荷の低下など初日から大幅な輸送遅延が生じました。その後、輸送セット業者の入れ替えや増車、輸送休日を上乗せした緊急輸送を実施するなどして輸送遅延解消に向けて進めてまいりましたが、最後まで解消には至らない結果となりました。生産者皆様には計画出荷に向けご協力いただいたにも関わらず、このような事態となり改めて深くお詫び申し上げます。

てん菜を取り巻く情勢は、て

てん菜交付金交付対象数量上限枠の段階的な削減、直接支払交付金単価（ゲタ対策）の減額、農業資材の高騰、防除回数増加による農薬代の掛り増しなど依然として農業経営維持を揺るがす厳しい状況が続いております。

てん菜は地力を維持していくために必要な輪作体系の一翼を担っています。皆様方の生産基盤維持と生産性確保には必須であり、生産者・関係機関・製糖工場が一体となって取り組んでいくことが重要となります。引き続きご協力の程宜しくお願い申し上げます。

皆様方のご健康とご多幸、本年の出来秋を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶といたします。本年も宜しくお願ひ申し上げます。



# こしみず実りの感謝祭

寒い中沢山のご来場ありがとうございました！

令和6年11月24日(日)アグリハートセンターにて「こしみず実りの感謝祭」が開催されました。

Photo



JA共済課【ふれあい活動】



JA農産課【砂糖無料配布】



JA畜産課・酪農部会【無水牛乳無料配布】



JA広報室【VR体験】



JA役員【やさいも】



JA青年部【小清水ビール販売】



JA広報室・青果課【玉ねぎ・あったかいうどん・加工品販売】



JA女性部【豚汁無料配布・でんぶだんご販売】



# こしみず実りの感謝祭 2024 フォトコンテスト結果発表

小清水の農業や農村風景テーマに今年も農村フォトコンテストを実施しました。小清水町の素敵な農業に関する写真や作物のおもしろい写真など様々な作品をご応募頂きました。（合計40作品）今回は3つ賞を設け、実行委員の青年部・女性部・フレッシュミズが1作品ずつ厳選しました。受賞された皆様おめでとうございます！



女性部賞  
「舞い」  
千葉 英介さん



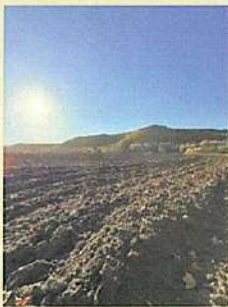
フレッシュミズ賞  
「二度と会えない 紫金山 アトラス彗星」  
アグリネイチャー倶楽部さん



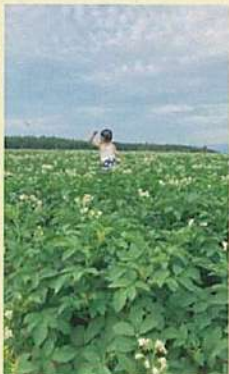
青年部賞  
「やっと会えたね」  
佐藤 明里さん



Congratulations

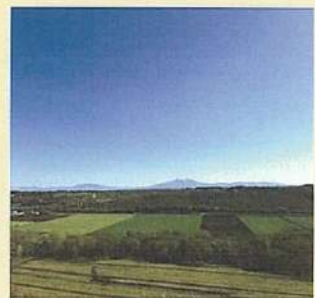
## フォト コンテスト 応募作品







  
 たくさんの  
 ご応募  
 ありがとうご  
 ざいました!  






## 姉妹提携JA JAにしよう訪問



令和6年11月17日～20日にかけて愛媛県八幡浜市にあるJAにしようを訪問し「産地間連携協議」「SNS連携協議」を行いました。

JAにしようでは人材不足に対応するため「全国からのアルバイト受け入れ」や「他JAと連携したアルバイトの産地間リレー」等の取り組みを行っているとのことでした。当町としても人材確保に向けて全国のアルバイトと連携し、アルバイト先の選択肢になれるよう、取り組みを拡大していく必要があると改めて感じ、大変有意義な協議となりました。また、共同選果場内では今後AIの導入等の作業員削減や作業負担の緩和に向けた展望を伺い、支援課の小形担当は「次の時代を見据えた取り組みに感銘を受けた」と話していました。

また、「SNS連携協議」では広報担当職員同士で意見交換することができ、現在はSNSコラボ企画についても計画中です！詳細はInstagramにて投稿しますので、ぜひフォローの上、楽しみにお待ちしております。

## JAこしみず 支援スタッフ

当町の支援スタッフ4名も同日にJAにしように向けて出発し、12月末日までの約1か月の間、主にJAの中央選果場にて作業を行います。なかには5年連続で西宇和での農作業支援にあたるスタッフもあり、「八幡浜が好きになった」と支援作業以外にも楽しく充実した西宇和ライフを送っていると笑顔を見せていました。また、年明けも1月から2月下旬まで支援スタッフ1名がにしようでの作業に入る予定です。



写真提供：JAにしよう



## 施設見学・園地訪問/収穫体験

訪問中は共同選果場や特産センターなどの施設見学、以前小清水にお越しいただいたことのある生産者（高橋さん）の園地訪問・収穫体験をさせていただきました。高橋さんは新規就農するために東京から愛媛県へ移住し、「みかんづくりに関してはまだまだ初心者です」とおっしゃいましたが、広い園地での管理作業や美味しいみかんの見分け方などいろいろなお話を聞かせていただくことができました。

## こしみず実りの感謝祭

昨年に引き続き「こしみず実りの感謝祭」にてみかん販売をしていただきました。本年は猛暑の影響もあり、現時点では昨年を下回る収穫量ではあるものの、こしみず実りの感謝祭のために何とかみかんを用意していただきました。美味しいみかんをお届けしていただき本当にありがとうございました。





令和6年12月5日(木)小清水町肉牛振興部会より町内の小・中学校の給食に、「小清水和牛」を無償提供していただきました。この取り組みは「小清水町に美味しい和牛があることを知ってもらおう」と令和2年から継続して行われています。校舎内は小清水和牛で作った牛丼のいい香りが漂っており、給食センター澤田栄養士は「普段給食で扱うのは難しい高級な小清水和牛は、毎年すごく緊張しながら調理をしているんです」とおっしゃっていました。また、澤田栄養士は事前に和牛を提供してくださった斎藤さん取材して子供達へ向けたムービーの作成や、当日の調理工程の撮影および写真を掲示する等、子供達にも伝わり「美味しい」「お肉好き」「牛丼サイコー！」などという子供達の声に嬉しそうな笑みを見せました。今回の和牛提供に携わっていただいた小清水町肉牛振興部会の皆さま、小清水町給食センターの皆さま、本当にありがとうございました。

澤田栄養士による給食メモの紹介

おかわりして沢山食べました！

スペシャル牛丼

美味しい和牛が食べれて嬉しそうな笑顔

## 第11回 理事会11月27日(水)

### ◆報告事項

- 1)第2回営農担当委員会(11/26)の開催結果について
- 2)第2回販売担当委員会(11/26)の開催結果について
- 3)第2回経済担当委員会(11/27)の開催結果について
- 4)第2回管理金融担当委員会(11/27)の開催結果について
- 5)令和6事業年度決算見込みについて
- 6)令和6年10月末現在の組合員加入及び脱退の状況について
- 7)マネー・ロンダリング等の防止にかかる対応状況の報告について
- 8)令和6年度第2回定例業務監査結果について

### ◆協議事項

- 1)令和7農業年度早取農業推進取扱要領について

### ◆議案

- 1)回転フォークリフト(牧場課)のリース契約の締結について
- 2)信用事業方法書(為替取引)の改正について
- 3)JAバンク利用者保護等管理規程の一部改正について
- 4)第3四半期における余裕金運用計画の見直しについて
- 5)北海道農業信用基金協会への出資増口について

## 第12回 理事会12月16日(月)

### ◆報告事項

- 1)令和4年産濃原馬鈴しょ精算払いについて
- 2)令和5年産濃原馬鈴しょ概算金について
- 3)令和6年産濃原馬鈴しょ数量払いの仮渡について
- 4)令和6年産大豆概算品代金及び数量払いの仮渡について
- 5)令和6年産青果物の概算・精算払いについて
- 6)第1回種子対策委員会(11/27)の開催結果について

### ◆議案

- 1)令和6年度期中特別対策(案)について
- 2)麦乾大豆将来ビジョン「穀類乾燥調製貯蔵施設増設工事」の取り組みについて
- 3)小清水町営牧場指定管理運営業務規程の改正(案)について
- 4)令和5年度補正石油ガス配送合理化事業完了に伴うリース契約締結について
- 5)役員報酬審議会委員の選任について
- 6)役員報酬審議会委員会への理事会訪問(案)について
- 7)出資持分の譲渡について

役員会議室

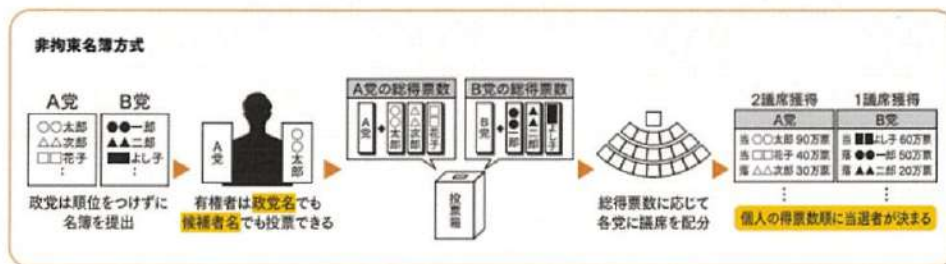


# JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

## 第5回「参議院選挙の仕組み」について

農政活動の柱の一つが、生産現場の声を代弁し、国や行政に積極的な働きかけをしてくれる議員を政治の場に送り出し、支えていくことです。そして、JAグループにとって最も重要なのが「参議院選挙比例代表」です。

参議院選挙では、各都道府県を区域とする「選挙区選挙」と、全国を一つの単位をする「比例代表選挙」の2つの選挙制度で成り立っています。「選挙区」は、北海道から立候補している候補者名を書いて投票します。「比例代表」は、全国から立候補している「候補者名」または「政党名」を書いて投票します。この「比例代表」は非拘束名簿方式といって、政党の得票数に応じて議席が配分された後、その政党の中で個人名の得票数が多い順に当選が決まる仕組みとなっています。



つまり、「比例代表」の投票用紙に「候補者名」を記入しないと応援したい候補者に票は入らない仕組みになっています。

「比例代表」には、さまざまな業界や団体が代表候補を送り出しています。多くの得票数を獲得し、当選順位を上げるよう活動しております。これは、高い順位で当選した候補者は、党内での発言力が増し、政策実現に近づくことができるからです。言い換えると、得票数で、我々JAグループの力が測られていることになります。

国会(政治)は数が力です。国を動かすには、国会に一人でも多くの農業やJAの理解者を増やすことが重要



です。そのために、我々JAグループの代弁者として、先頭に立って多くの国会議員に働きかけ、農業やJAの理解者を増やし、まとめていくことができる議員、つまり、JAグループの代表議員が必要なのです。

東野ひでき公式  
LINEアカウントへの  
登録はこちらから



【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年夏頃まで連載いたします。次回(第6回)は、後援会の活動経過について報告します。

東野ひでき北海道後援会

# JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

## 第6回「東野ひでき北海道後援会の活動経過」について

過去の参議院選挙(比例代表)での危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが大切です。

北海道後援会では、JA役職員、組合員、青年部・女性部盟友、各連合会・関係機関など東野ひでき氏の応援の輪を広げていくために、農政学習会等を通じて「なかまづくり運動」を展開してきました。

### 「ひできのなかまづくり運動」

「ひ」…ひとりでも多く! 「で」…できることから! 「き」…きょうから始めよう!

各々が、応援を依頼する「なかま」を確実に2名以上特定し、さらに、その「なかま」1名につき、新たに2名以上の「なかま」を特定し、「なかま」を広げていきましょう。

令和6年3月29日に東野ひでき北海道後援会を設立して以降、主に以下の取り組みを実施しております。

- JA総会・総代会にて東野の動画映写や組織結集に向けた決議等を実施。
- JA・連合会にて推薦手続きを完了。
- 道連常勤役員・地区会長他によるJA等巡回。
- 東野による全国連・全国機関、都府県連合会・JA等巡回を実施。
- 東野による道内各連合会、関係機関、取引先、JA等巡回(励ます会)を実施。
- 農政学習会の実施。
- 各種資材の活用。  
(農政学習教材(資料・動画)、東野ひでき紹介動画、室内掲示用ポスター、リーフレット、運動推進ステッカー、名刺貼付用シールなど)
- JA広報誌での連載と北海道農政ジャーナルの発行。
- SNS(HP、LINE、Instagram、YouTube、Facebook)による活動報告。
- 青年部・女性部による東野ひでき親衛隊「動画大作戦」の実施。(毎月1回YouTube配信)



今後は、上記の取り組みに加え、屋外用政治活動用ポスターの掲示(野立て看板の設置)、東野出席のもと道内12地区の巡回等や、青年・女性組織の道・地区・単組段階での推薦手続き等を実施していきます。

農業・JAを取り巻く厳しい状況下において、JAグループ北海道の政策提案を実現し、組合員の営農と生活を守るためには政治力の強化が極めて重要であります。

農政学習運動等を通じて組織選挙の意義を共有し、引き続き「なかまづくり運動」を広げていきましょう!

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年まで連載いたします。次回(第7回)は、「業界を代表する候補者を選ぶことの重要性」について報告します。

東野ひでき公式  
LINEアカウントへの  
登録はこちらから



東野ひでき北海道後援会

JAへの就職希望者100%就職 (令和5年度実績)

## 令和7年度第3回学生募集

- 定員40名 ●男女共学 ●1カ年●寮完備(個室)●通学制開始
- 受験資格:満27歳未満(令和6年4月1日現在)/大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日:令和7年2月2日(日)●願書受付:令和7年1月6日(月)~1月24日(金)消印有効
- オープンキャンパス随時開催中

令和7年度より  
通学制開始

JAグループ職員養成校 ● JAカレッジ

一般財団法人 北海道農業協同組合学校  
〒069-0834 江別市文京台東町43-1 ☎0120-918-417  
【JAカレッジ】で検索

JAこしみず's  
キッチン  
No.25

今夜のおかずはこれで決まり！

茨城県笠間市にある  
「キッチン晴人（ハレジン）」  
オーナーシェフ

永井智一シェフ監修

『海老すり身揚げ  
点心仕立て』



— 材 料(4人分) —

- 赤エビ ..... 10本
- 水 ..... 400ml
- 生クリーム ..... 100ml
- 片栗粉 ..... 大さじ1/2
- 塩 ..... 少々
- こしょう ..... 少々
- タマネギ(みじん切り) ..... 1/2個
- 春巻きの皮 ..... 4 枚
- 揚げ油 ..... 適宜
- ミニトマト ..... 4 個

作り方

- ①赤エビは身と頭に分け、頭の部分を使ってだしを取る。頭と水を鍋に入れ、強火で沸かし半分煮詰め、生クリームと合わせてソースとする。身は殻をおき、背わたを取り包丁でたたく。
- ②ボウルに①の赤エビの身、片栗粉、塩、こしょう、タマネギのみじん切りを入れ、粘りが出るまで混ぜ合わせる。4等分して丸く形を整え、細切りにした春巻きの皮を付ける。
- ③170度に熱した油で②をきつね色になるまで揚げる。
- ④①のソースを塩、こしょうで味を調え、熱して器に流し、③とミニトマトをのせ出来上がり。



第53回オホーツクJA  
青年部研修大会に出席！

11月16日に北見市にてオホーツクJA青年部研修大会が開催されました。大会では青年の主張発表大会や動画で発信！農の魅力コンテスト、基調講演では映画「大地の侍」が上映され、農業を含めた北海道開拓に関する歴史を学びました。懇親会では純農Boyオホーツク地区オーディション・JA青年部アームレスリング大会が開催され、JAこしみず青年部からは泉地区の佐藤一輝さん（純農Boy）と水上地区の渡邊直人さん（アームレスリング）が出演し、大いに盛り上がる大会となりました。



JAこしみず  
Instagram



JAこしみず  
ホームページ